

4. 居住地域の環境評価

4-1 住んでいる地域と自宅の環境に対する満足度

Q1では、「あなたの住んでおられる地域や住まいのことでお伺いします」と設問し、下記の表4-1に示した12種の居住地域の環境について、「満足」から「不満」までの4段階で答えてもらった。

表4-1 居住地域の環境と自宅の環境に対する満足度 %

環 境 項 目	満足	どちらかと言え ば満足	どちらかと言え ば不満	不満
1) 散歩のできる場所について	25.2	40.0	24.2	10.3
2) 空気について	21.3	40.9	22.3	15.5
3) 地域の緑について	27.7	40.2	23.2	8.9
4) 地域の静けさについて	19.6	43.9	19.6	16.9
5) ゴミの回収について	34.8	42.2	15.3	7.8
6) 買い物の便について	32.6	33.8	22.0	11.6
7) 交通の便について	34.0	32.0	21.1	12.9
8) 近所付き合いについて	21.1	57.8	16.1	5.0
9) 周辺の道路の安全について	10.3	33.8	36.5	19.4
10) あなたの家の日当たりについて	40.5	32.5	16.3	10.7
11) あなたの家の中の静けさについて	35.3	45.1	12.9	6.6
12) あなたの家の中の風通しについて	41.1	39.9	14.0	5.0

図4-1に地域の環境評価を不満度が高い順に示す。調査票では「どちらかと言えば満足（または不満）」という言葉を用いたが、この報告書では「やや満足（または不満）」と言葉を省略して表現し、「満足」と「やや満足」を合わせて「満足側」とする。

「周辺道路の安全」を除けば60%以上が「満足側」にあり、現状肯定的である。これは、自分の生活環境を悪いと思いたくない感情の表れとも言える。「満足」が30%を超える項目は個人の住宅事情に関する「家の日当たり」、「家の中の静けさ」、「家の中の風通し」と、都市の利便性を示す「ゴミの回収」、「買い物の便」、「交通の便」とである。特異なパターンは「近所付き合い」で、「ゴミの回収」、「家の中の静けさ」及び「家の中の風通し」と同様に約80%が「満足側」に

あるが、それらの「満足」が約40%であるのに対して20%と低い。人間関係の難しさが正直に表出しているのであろう。

最も不満が高い項目は身の危険に関係する「周辺道路の安全」であり、「不満」が19.4%、「やや不満」が36.5%で「不満側」が50%を超えるものはこれだけである。12の項目の中では不満感が突出している。残りのどちらかと言えば精神的な満足と異なり、安全に関しては物理的な満足が求められている。他に「不満側」が高い項目は、35%を超すものとして「空気」（不満：15.5%，やや不満：22.3%）があり、30%を超す項目として「地域の静けさ」（不満：16.9%，やや不満：19.6%），「散歩のできる場所」（不満：10.3%，やや不満：24.4%），「交通の便」（不満：12.9%，やや不満：21.1%），「買い物の便」（不満：11.6%，やや不満：22%）及び「地域の緑」（不満：8.9%，やや不満：23.2%）がある。

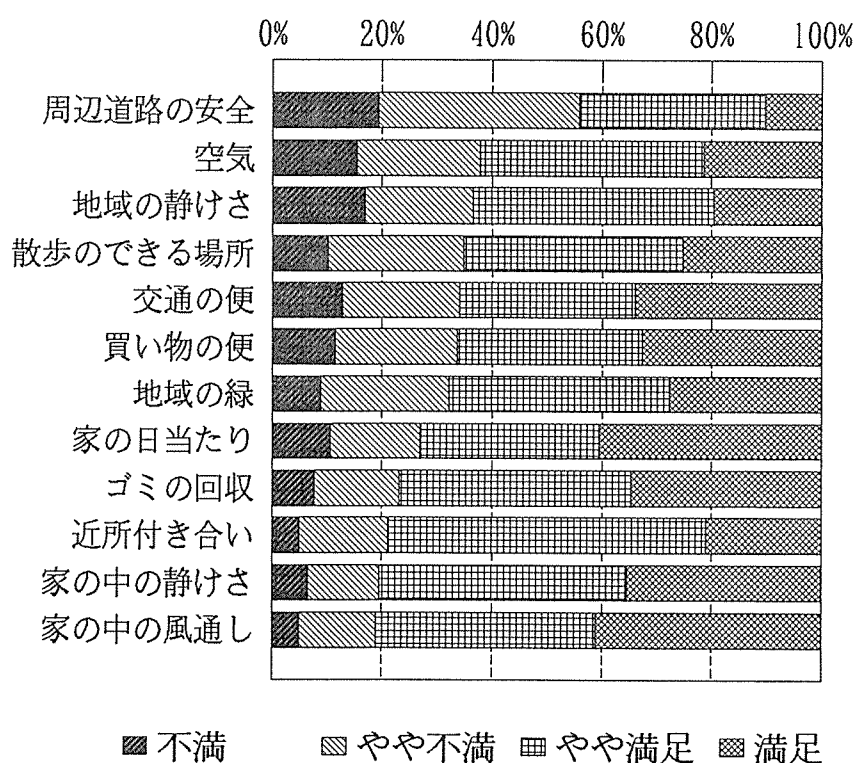


図4-1 地域環境に対する満足度

4-2 地域の静けさと家の中の静けさ

地域の静けさに対する満足度と家の中の静けさに対する満足度の関係をクロス集計で求めた。結果を表4-2と図4-2に示す。

「地域の静けさ」に「不満」な者は、「家の中の静けさ」に対しては「満足」が少なめではあるものの概ね他の項目に分散している。数字で示すと、「地域の静けさ」に「不満」な者のうち、「家の中の静けさ」に不満側の割合は約60％、残りの約40％は満足側である。これに対して「家の中の静けさ」に「不満」感を抱く人々の殆どが「地域の静けさ」に対しても「不満」と答えている。全体では5～6％の人々が、地域も家の中も騒がしいと感じながら生活している様子である。これらの人々が特に音に対して敏感であるのか、それとも劣悪な音環境に住んでいるのかは、この結果だけでは判断できないが横浜市内の人数としては相当の部分をお占めている。

表4-2 地域の静けさと家の中の静けさ %

地域の静けさ	家の中の静けさ				計
	不満	やや不満	やや満足	満足	
不満	5.6	4.5	4.7	2.2	16.9
やや不満	0.7	4.6	9.9	4.4	19.6
やや満足	0.2	3.3	26.1	14.3	43.9
満足	0.2	0.5	4.3	14.7	19.6
計	6.6	12.9	45.0	35.5	100

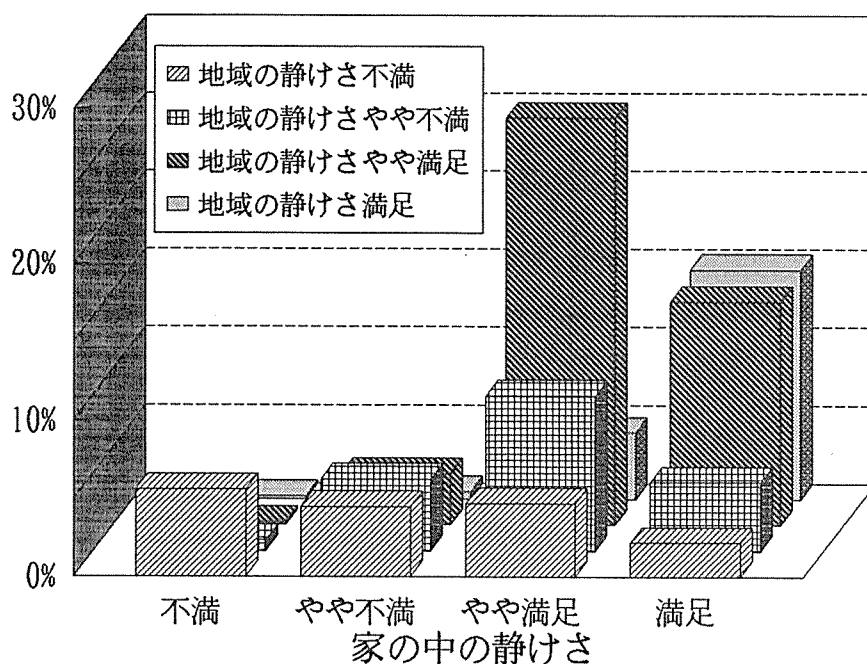


図4-2 地域の静けさ一家の中の静けさ

4-3 地域環境評価の用途地域別比較

用途地域は地域の特徴を把握する上で便利な社会指標であり様々な調査で利用される。特に騒音関係では環境基準や規制基準が用途地域毎に決められており、重要な要素である。ここではどのような地域において先の表4-1に示した環境に対して不満が高いかを比較してみる。

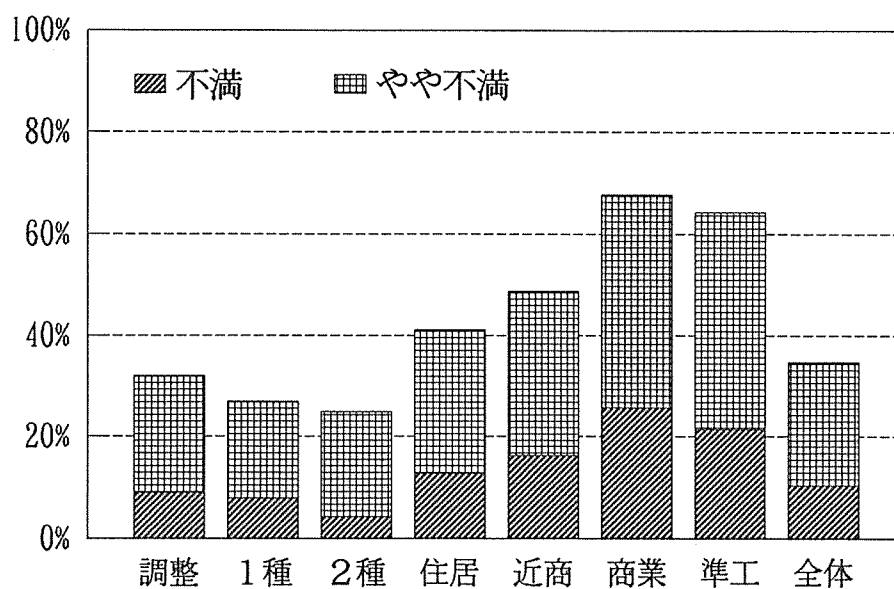


図4-3 散歩のできる場所

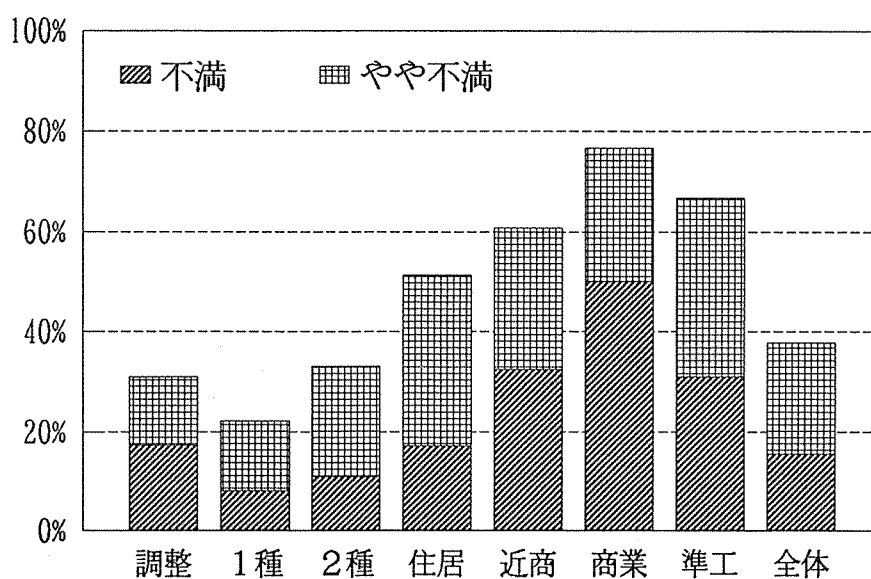


図4-4 空気

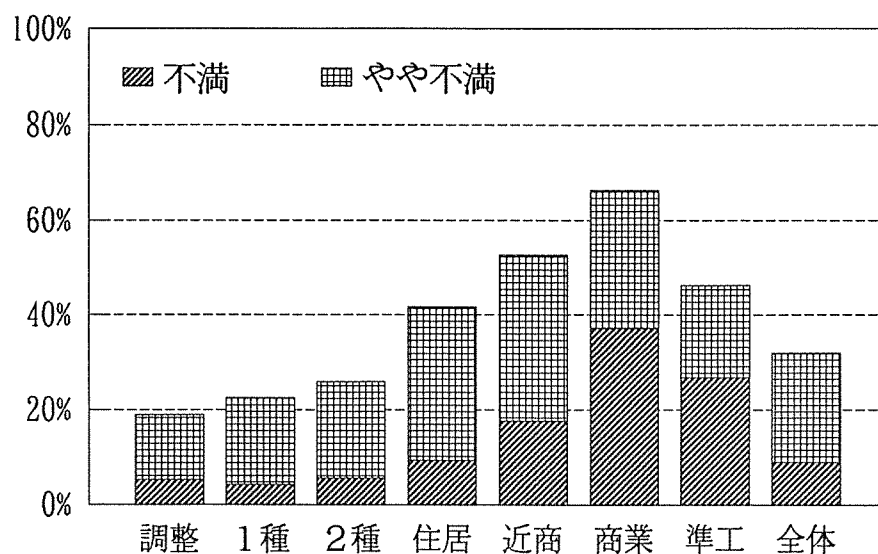


図4-5 地域の緑

表4-3 地域の静けさに対する満足度					%
用途地域	不満	やや不満	やや満足	満足	計
調整	15.8	14.0	42.1	28.1	100
1種	5.2	15.4	51.6	27.9	100
2種	14.1	13.7	51.3	20.9	100
住居	23.8	29.7	35.6	10.5	100
近商	35.1	21.6	37.8	5.4	100
商業	54.2	23.7	15.3	6.8	100
準工	36.6	34.1	19.5	9.8	100
工業	33.3	33.3	33.3	0	100
全体	16.9	19.6	43.9	19.6	100

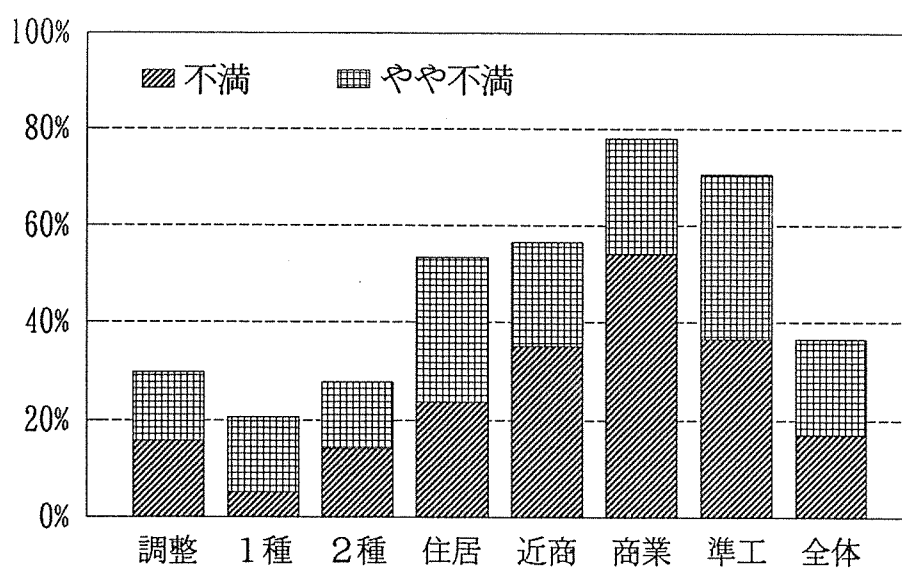


図4-6 地域の静けさに対する不満度（用途地域別）

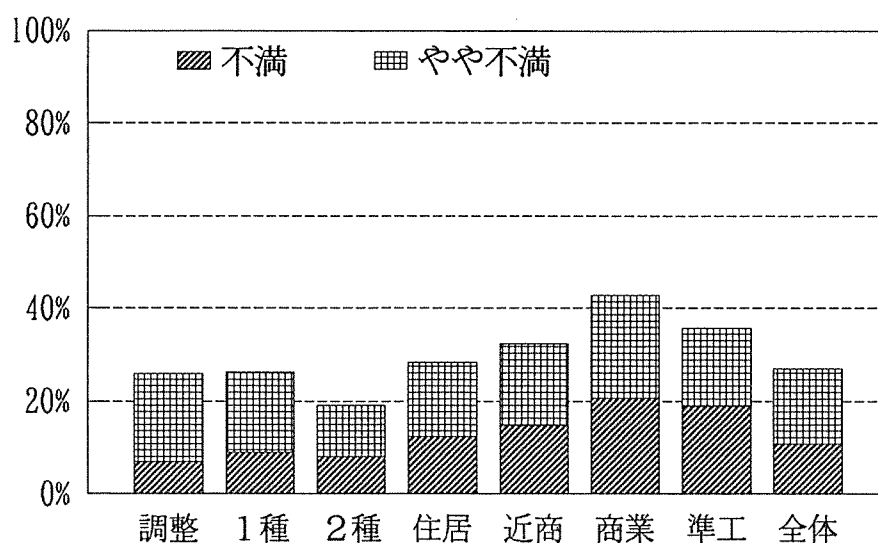


図4-7 家の日当たり

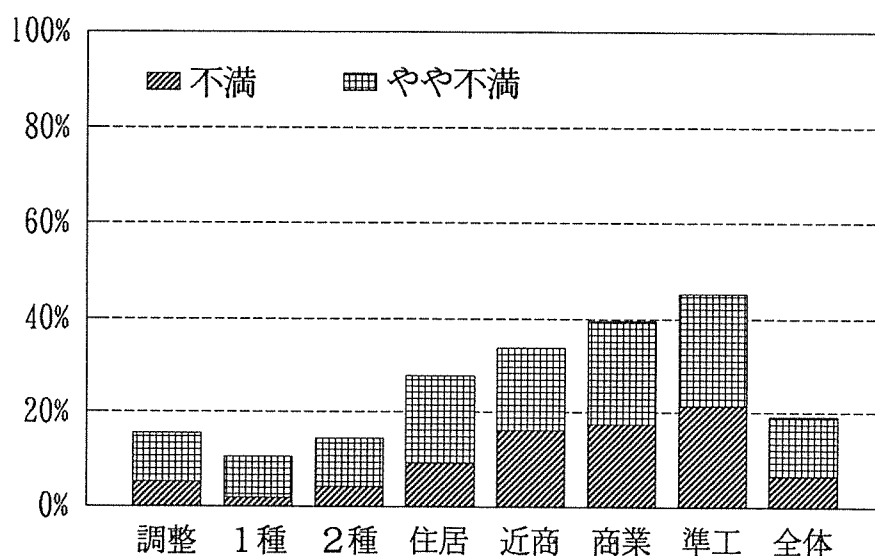


図4-8 家の中の静けさ

用途地域別に「不満側」の度合いを昇順に並べると、傾向として、「調整・1種・2種」, 「住居」, 「近商」, 「準工」及び「商業」の順になる項目は, 「散歩のできる場所」(図4-3), 「空気」(図4-4), 「緑」(図4-5), 「静けさ」(表4-3, 図4-6), 「家の日当たり」(図4-7)及び「家の中の静けさ」(図4-8)である。「家の中の風通し」はそれほど明確ではないが, このグループに属すると判断できる結果である。

同様に降順に並べて上記用途地域群の順になる項目は、「買い物の便」（図４－９）と「交通の便」（図４－１０）である。

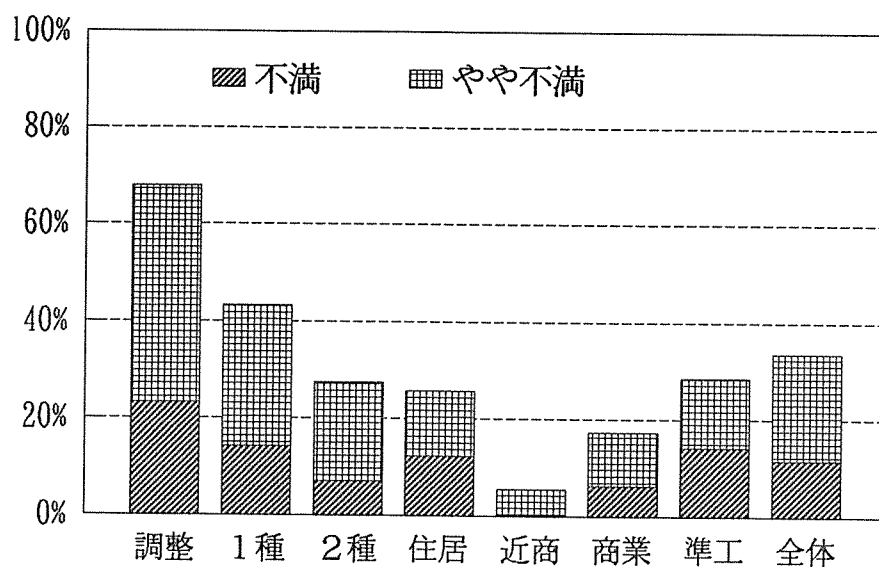


図４－９ 買い物の便

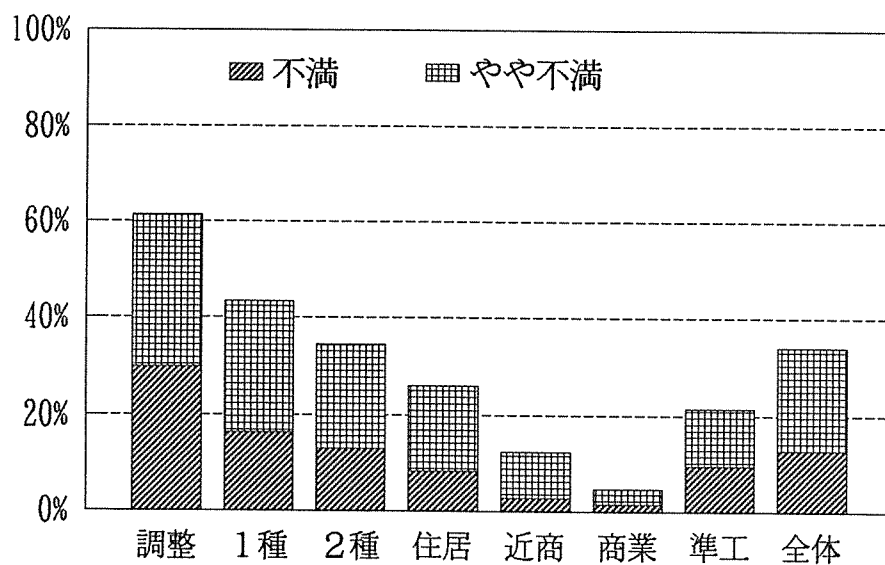


図４－１０ 交通の便

不満度が用途地域とあまり関係を持たない項目は「ゴミの回収」，「近所付き合い」及び「周辺道路の安全」（図４－１１）となっている。

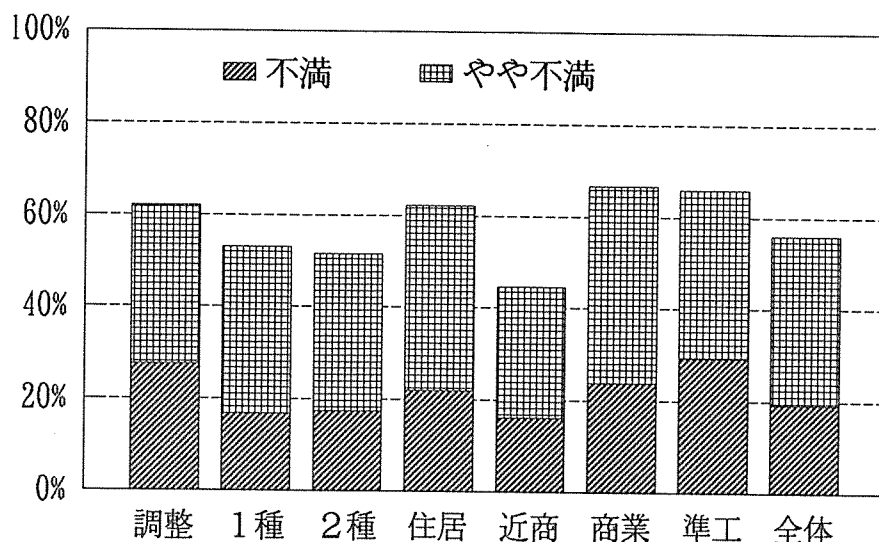


図４－１１ 周辺の道路の安全

以上のことから，生活の便が良くなり人々が集中して来ると自然環境への不満が高まり，集中した人々の活動が原因である環境破壊，即ちここでの例では音環境の破壊に対する不満が高まっている様子が明らかである。この一見して当り前の様な問題（トレードオフ）を解決することが，これからの都市に住む市民の希望であろうし都市の課題であろう。

更に，もう一つの問題は，住居地域の住民の満足感に在るのではなかろうか。既に見た様に，「散歩のできる場所」や「空気」の様な自然的環境に対する満足度は調整区域や住居専用地域で高く，「交通の便」といった都市的環境に対する満足度は商業系で高い。しかし，住居地域の人々はこのどちらに対しても常に中位の中途半端な満足率を示しており，他地域に比し，言わば満足感は充足されず不満足感も我慢できない程ではない環境に囲まれて生活していると言える。上述のトレードオフが無い状態である。都市の環境を考える上での陥穽ではなかろうか。

4－4 用途地域別地域の静けさ

結果は既に先の表４－３と図４－６に示してある。不満度が最も小さいのは１種

で、「不満側」の割合は約20%である。この1種地域の特徴は、他の地域に比べ「不満」が5%と極端に少ない点にある。静けさという音環境では非常に良好と言える。他の地域の「不満側」割合を眺めると、調整と2種が大体30%、以下、住居で50%、近商で60%、準工で60%そして商業が最大で80%となっている。住居地域を境に、半数以上の住民が不満感を抱く地域とそうでない地域とに分かれている。

4-5 地域環境の変化

Q2では、Q1と同等の12種の地域環境について、どの様に変化していると感じられているかを質問し、「良くなっている」、「変わらない」、「悪くなっている」の3項から回答を得た。結果を表4-4と図4-12に示す。

どの項目でも最も多い回答は「変わらない」である。「良くなっている」と20%以上が答えた項目は、「交通の便」と「買い物の便」だけである。

「悪くなっている」とする回答割合の大きい地域環境は、41%の「地域の静けさ」、36%前後の「周辺道路の安全」、「地域の緑」及び「空気」である。なお、「地域の静けさ」が「良くなっている」と考えている者は全体の4.7%に過ぎない。

表4-4 地域環境の変化			%		
順	No.	環境項目	良くなっている	変わらない	悪くなっている
1	4	地域の静けさ	4.7	54.1	41.2
2	9	周辺道路の安全	8.2	55.0	36.8
3	3	地域の緑	8.7	55.2	36.1
4	2	空気	6.0	58.9	35.1
5	1	散歩のできる場所	16.0	63.1	20.9
6	10	家の日当たり	7.2	78.9	13.9
7	11	家の中の静けさ	6.6	81.6	11.8
8	5	ゴミの回収	16.4	73.0	10.6
9	8	近所付き合い	9.0	83.1	7.9
10	12	家の中の風通し	7.4	85.0	7.5
11	7	交通の便	22.2	72.9	4.9
12	6	買い物の便	27.5	69.8	2.7

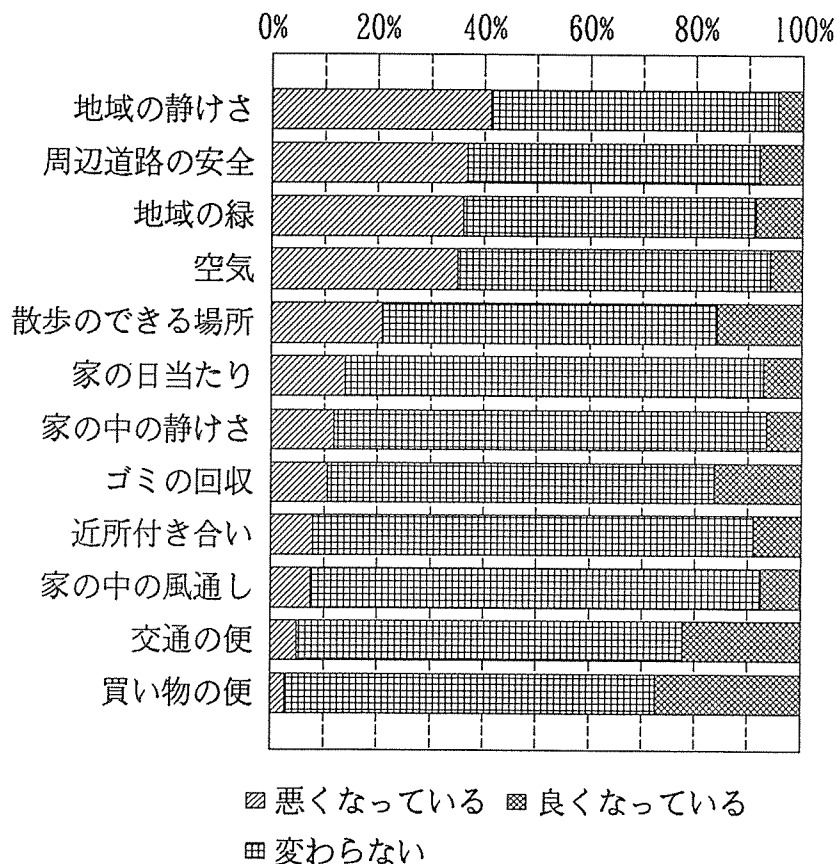


図 4 - 1 2 地域環境の変化

用途地域別に見た「地域の静けさ」の変化を図 4 - 1 3 に示す。ここでも「地域の静けさ」評価と同様に、住居専用的な地域から商業・工業系地域へと移行するにつれ、「悪くなっている」とする割合が増加している。目立つのは商業地域であり、その住民の66%が「悪くなっている」と答えており、先の「地域の静けさ」に対する不満の大きさも考慮すると音環境は劣悪と言えよう。また、住居、近商及び準工の各地域に住む人々の半数近くが「悪くなっている」と回答しており、商業を含めこれらの地域住民が、都市の音環境が改善されていると実感するにはほど遠い現状の様である。

「空気の変化」に対して「悪くなっている」とする評価は、住専系で割合が小さく商工系で高い傾向であり（図 4 - 1 4）、「地域の静けさ」に対する評価パタン

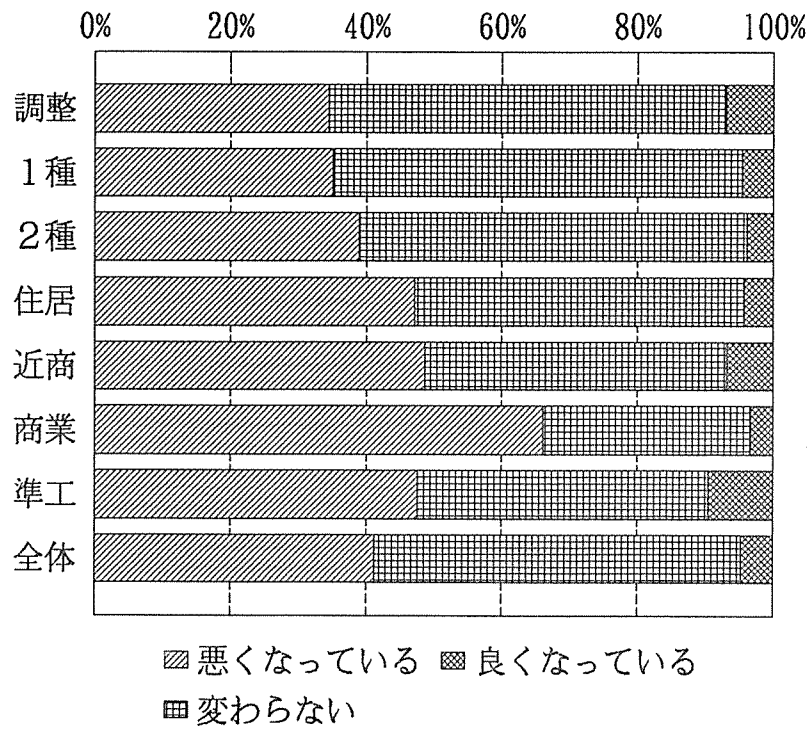


図4-13 静けさの変化

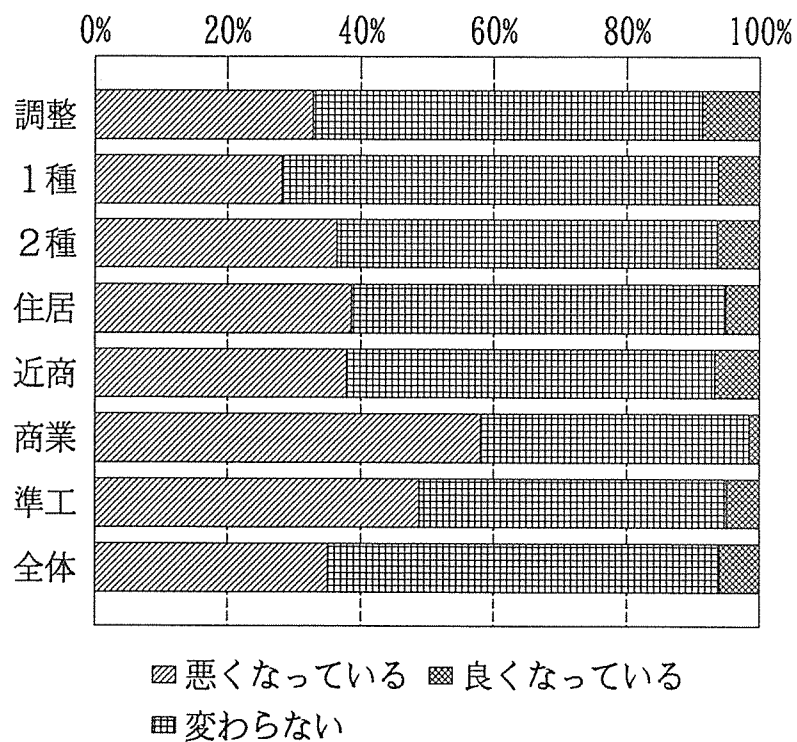


図4-14 空気の変化

とほぼ同一である。その他の地域環境の変化では用途地域との関連はあまり認められない。一例として「周辺道路の安全」に対する結果を図４－１５に示す。

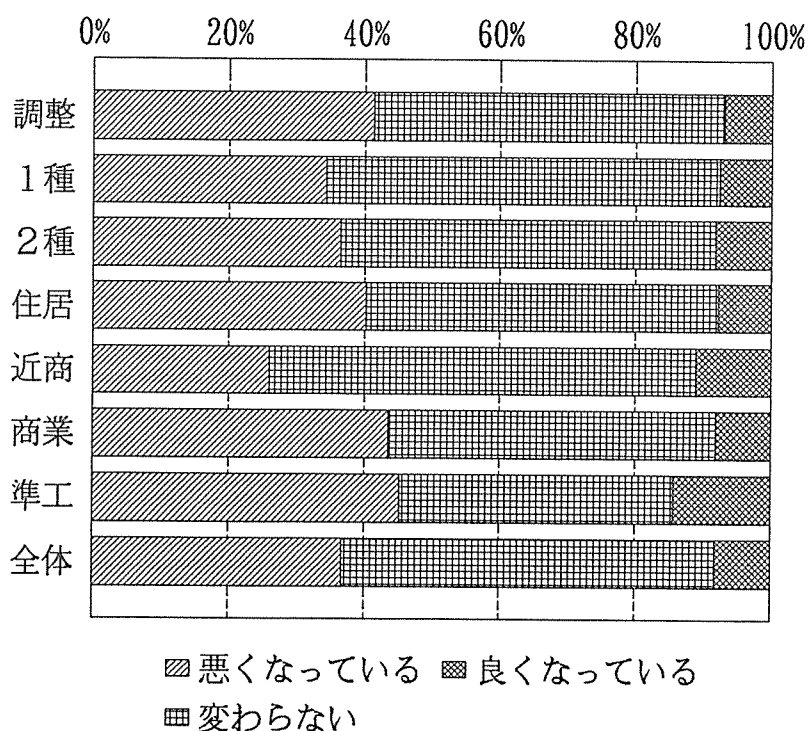


図４－１５ 周辺道路の安全の変化

４－６ 住みたい音環境

どの様な音環境に住みたいと考えているかをＱ９で質問した。図４－１６に示す様に、回答者の70%強が「自然の音に包まれた所」と回答しており、これは回答肢を作成した段階からかなり想像された結果である。「音が無く静かな所」を選んだ人々は7%に過ぎないが、これに対して「人の生活の音が聞こえる所」(14%)、「適当に交通の音が聞こえる所」(4%)、「賑やかな所」(0.8%)と、生活に付随した何らかの音がある場所を好む人々が約20%存在する。

用途地域別に見ると、既に述べた様に「地域の静けさ」に不満が多く、「地域の静けさ」は「悪くなっている」とする割合が多い近商・商業・準工の人々が、音の存在に寛容的である。

ところで、「音が無く静かな所」と「自然の音に包まれた所」を選択した人の合計割合が最も多いのは住居地域である。その値は85%を超えている。横浜市の場合、主たる道路の沿道は殆どが住居地域であって、その住民は既に述べた如く地域の12の環境に対して程々の満足感と不満感を抱いて生活し、なおかつ良いとは言えない音環境から逃れて「静かで自然の音に包まれた所」を希求する姿が窺える。

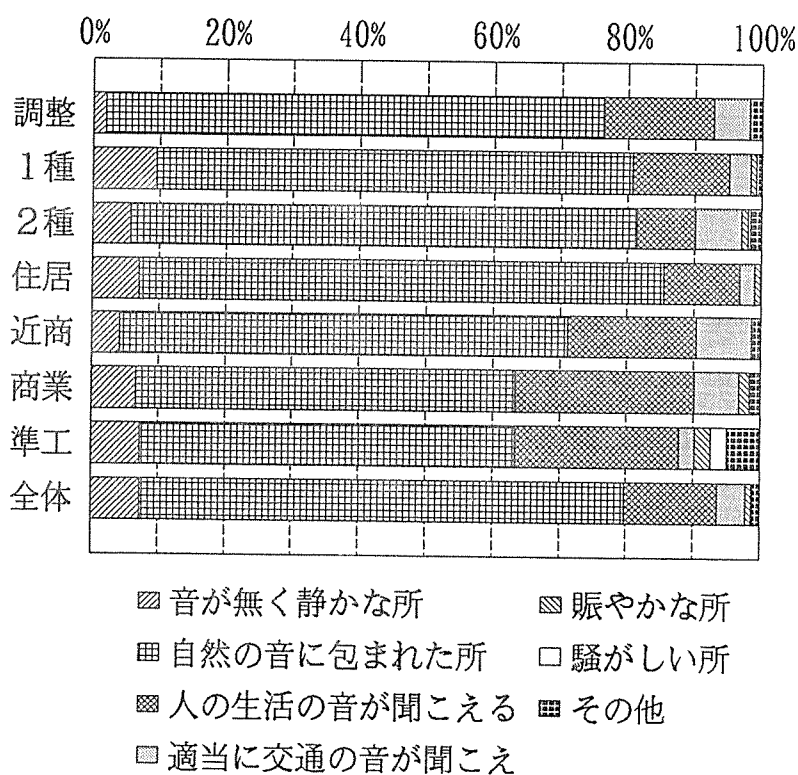


図4-16 住みたい音環境（用途地域別）

4-7 第4章のまとめ

- 1) 「満足」と「やや満足」の合計が約80%となるものは、「近所付き合い」や「家の中の静けさ」といった個人的な項目である。なお「ゴミの回収」に対する満足感も高い。
- 2) 居住地域の環境の中で、「不満」と「やや不満」を合わせた「不満側」の率が最も高いものは、事故やケガと直結する「周辺道路の安全」で50%以上となっている。その他で「不満側」が高率な項目は「空気」（38%）, 「地域の静けさ」（37%）, 「散歩のできる場所」（35%）等である。

3) 「地域の静けさ」に「不満」な者は全体では17%だが、用途地域別に見ると、第1種住居専用地域で5%と最も少なく、地域が住居系から商工系へ移行するに従ってその数が漸増し、商業地域では54%と最も多い。

4) 「地域の静けさ」に「不満」な者は必ずしも「家の中の静けさ」に「不満」ではないが、「家の中の静けさ」に「不満」な者の殆どは「地域の静けさ」に対しても「不満」と表明している。この双方の静けさに「不満」な者は5～6%である。

5) 地域の環境の変化で最も「悪くなっている」ものは「地域の静けさ」であり、この項目のみ40%以上の者がその様に考えている。35%程度の人々が「悪くなっている」とした他の項目は「周辺道路の安全」，「地域の緑」及び「空気」となっている。

6) 住みたい音環境としては、「自然の音に包まれた所」が圧倒的に支持されており70%の人々が望んでいる。20%弱は生活の音が聞こえる地域を選んでいるが、普段から比較的大きな音に慣れ共に生きている人々がこの地域を望む傾向がある。